日本経済史 II

科目ナンバリング ECH-202
選択必修 2単位

粟倉 大輔

1. 授業の概要(ねらい)

経済史とは、経済生活(人間の生存・発展に関わる基礎的な活動)の歴史である。この経済生活とは、日本を含む世界のどの地域でも、またどの時代においても、人間にとって必要不可欠なものといえよう。この流れをたどっていくことは、現代の経済システムが構築されてきたものを振り返り理解することでもある。本講義では、大正時代以降の経済史を取り上げる。国内経済の動きが中心となるが、それ以外にも、海外の情勢や日本との関係など経済活動の背景に起こった動きについても解説する。

2. 授業の到達目標

- ①大正時代以降の経済の動きとその変化はもちろん、それらを取り巻く政治的・社会的動きについても把握し説明できるようにすること。
- ②現代の日本経済をめぐる諸問題についても考察できる力を養うこと。
- ③歴史は単なる過去の事象ではなく、現代に生きる我々にも関係しているものであると認識すること。

3. 成績評価の方法および基準

小テスト(全3回を予定):30%

最終試験:70%

4. 教科書・参考文献

教科書

浜野潔・井奥成彦ほか 日本経済史1600-2015 歴史に読む現代 慶應義塾大学出版会、2017年

参考文献

授業内で適宜紹介する。

5. 準備学修の内容

こちらで作成するレジュメをもとに授業を進める。内容は時系列で進んでいくので、レジュメの読み返しといった前回の復習は必須となる。また、毎回配布するレジュメには、内容に関するキーワードを5~7個設定するので、その意味するところをしっかりと理解・復習しておくようにすること。

6. その他履修上の注意事項

高校卒業時点での日本史の知識が必須となる。また、前期の「日本経済史Ⅰ」、および「経済史概論」・「西洋経済史」・「アジア経済史」・「日本史概説」などについても履修しておくことが望ましい。

なお、全15回のうち、第14回については、LMSにコンテンツを掲載するオンライン授業となる。

7. 授業内容

【第1回】	イントロダクション:日本経済史Ⅱの課題
【第2回】	第1次世界大戦と日本
【第3回】	1920年代の日本経済と経済政策
【第4回】	金解禁問題と昭和恐慌
【第5回】	高橋財政と重化学工業化
【第6回】	戦時統制経済の展開
【第7回】	敗戦と戦後改革
【第8回】	戦後のインフレと経済復興
【第9回】	ドッジラインと朝鮮特需
【第10回】	高度成長①:経済成長の実現
【第11回】	高度成長②:成長の陰
【第12回】	安定成長期の日本経済
【第13回】	バブル経済と「失われた10年」
【第14回】	2000年代以降の日本経済
【第15回】	全体のまとめ